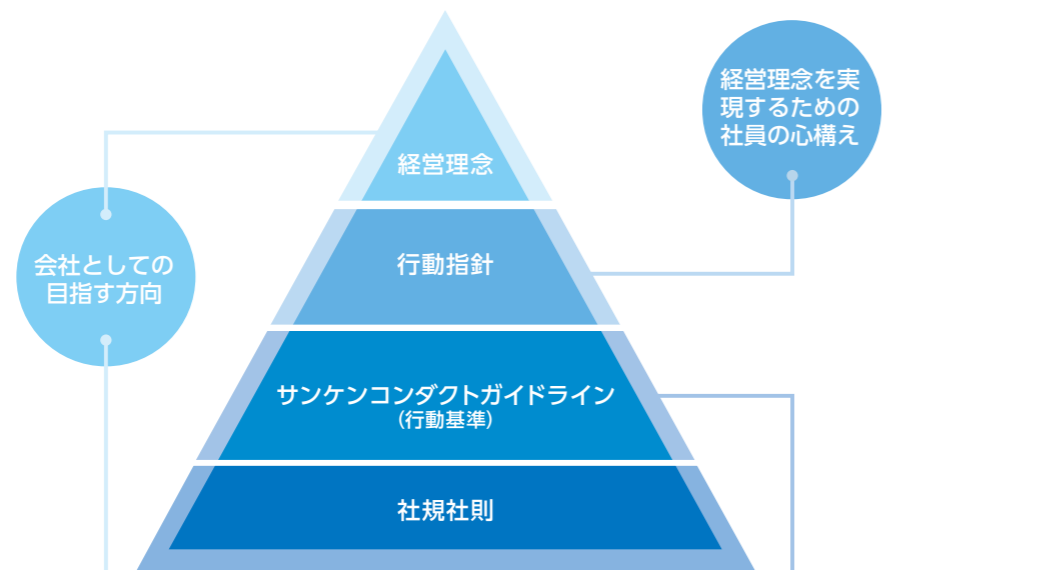


「経営理念」の実践を通じ、社会貢献することをCSR活動の軸として、「社会との関わり」「厳正な企業経営」そして「地球環境の保全」といった観点からCSRの取り組みを行っています。

サンケングループのCSR

サンケングループの理念体系は、経営理念、行動指針、コンダクトガイドライン(行動基準)の3つで構成されています。



**経営理念**

- 私たちは、半導体をコアビジネスに、パワーエレクトロニクスとその周辺領域を含めた最適なソリューションを提供することを使命とし、世界各国の産業・経済・文化の発展に寄与する。
- 私たちは、常に技術力と創造力の革新に努め、品質の確かさを追求する。さらに顧客と価値観を共有し、独自の技術をもってグローバルに事業を展開する。
- 私たちは、従業員一人ひとりを尊重し、すべての従業員に公正に接する。また、従業員は信頼される個人、そして企業人として成長するよう努める。
- 私たちは、技術と創造を重んじる企業人として、高い倫理観に依って業務を遂行し、公正さと高潔さをもって顧客や取引先に対して接する。
- 私たちは、株主のために会社の価値を最大限に高め、社会的な責任を果たし、環境との調和に努める。

サンケン電気株式会社  
サンケングループ

- 社長の基本姿勢とコミットメント
- 行動指針に定める、遵守すべき重要なルール具体化
- 社員の行動責任の明確化
- ステークホルダーへのコミットメント

サンケングループCSR基本方針

<https://www.sanken-ele.co.jp/csr/governance.htm#policy>



サンケン電気の  
SDGsへの貢献  
持続可能な社会を  
支える企業として

SDGsに対する考え方

SDGsは2015年に国連で採択された世界共通の目標であり、「持続可能な世界を実現する」ために経済・社会・環境の側面からバランスが取れた社会を目指す必要があるとの認識のもと定められました。

具体的には、2030年を目標達成期限とし、17のゴール(目標)と169のターゲット(達成基準)で構成され、国や企業などすべての関係者が役割を果たすことが求められています。

サンケン電気としても、グループ全体でSDGsに取り組んでまいります。

サンケン電気の経営理念に掲げる「半導体をコアビジネスに、パワーエレクトロニクスとその周辺領域を含めた最適なソリューションを提供することを使命とし、世界各国の産業・経済・文化の発展に寄与する」という考え方は、SDGsの「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」および「産業と技術革新の基盤をつくろう」という目標と合致しており、事業の推進がSDGsの貢献へ繋がるものと考えています。その上でSDGsの各ゴールを深く理解し具体的な行動に繋げることで、ビジネスリスクの軽減や新たなビジネスチャンスの創出を図りたいと考えています。

当社のSDGsへの取り組みを展開するにあたり、事業を通じた社会貢献、法令遵守・人権擁護、環境保全、地域貢献に関する考え方を「サンケングループCSR基本方針」に取りまとめました。

この「サンケングループCSR基本方針」の考え方をベースとして、SDGsの具体的な行動計画を展開します。

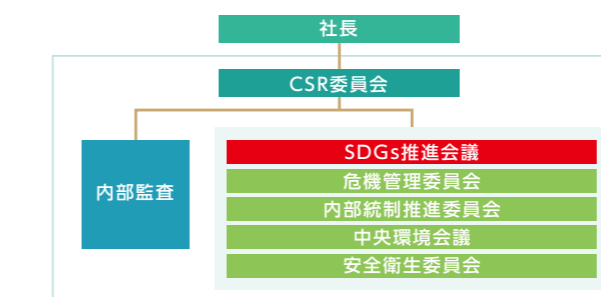


推進組織

SDGsをサンケングループ全社で展開する推進機関として、「SDGs推進会議」を設置し、SDGsの具体的な行動計画の立案や推進および事業計画への取り込みなどを確認します。

SDGs推進会議の審議内容は、CSR委員会を経て経営に報告/審議されます。

CSR推進体制



取り組み

現状の分析から行動計画を立案し、定期的に進捗確認を行い、その結果をもって新たに計画を見直すといったPDCAを実践します。

また、SDGsへの理解を深めるため、経営層をはじめとした社員全体への教育を様々な形で実施します。



# 私たちの製品が使われているところ

当社製品は、省エネルギーへの要求やデジタル化が加速する市場において、自動車・白物家電・民生・LED照明・産業機器などの様々な製品に使われています。さらには、新エネルギー・グリーン・インフラ市場へ商品を展開していくことで、社会に貢献しています。



サンケン電気の  
環境貢献製品で  
グローバル社会に寄与



これまで開発してきたもの		使われているところ/アピールポイント	
求められていること	製品名		
<p><b>自動車</b></p> <p>燃費向上 軽量化 小型化</p>	<p>■IGBT</p> <p>エンジンの点火装置 (イグナイタ)</p>	<p>「実装面積55%」「重量75%」「消費電力20%」削減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小型化実現 (パッケージ(TO263)→(TO252)) ⇒従来品に比べて実装面積約55%削減、重量約75%削減</li> <li>低損失化実現VCE (SAT)の低減 競合1.62Vに対して1.29V ⇒消費電力20%削減</li> </ul>	
<p><b>白物家電</b></p> <p>省エネルギー 省資源</p>	<p>■高圧IPM</p> <p>エアコン・ 空気清浄機ファン</p>	<p>「高性能制御内蔵」により高効率化を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センサーレスベクトル制御を内蔵することにより、高効率化および省スペース化を実現し、省エネに貢献</li> </ul>	
	<p>■高圧IPM</p> <p>冷蔵庫コンプレッサ</p>	<p>「低損失MOSFET」「SIMパッケージ」により省エネに貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低損失MOSFETの採用により、ON抵抗を下げ、効率化を実現</li> <li>従来のSCMパッケージから小型のSIMパッケージにシュリンクし、消費電力および発熱量を低減</li> </ul>	
<p><b>民生</b></p> <p>省資源</p>	<p>■デジタル制御電源IC</p> <p>有機ELテレビ</p>	<p>部品点数の大幅な削減、基板サイズの縮小</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル制御にしかできない高度なPFC制御により、低負荷時の効率を従来から大幅に改善</li> <li>PFC制御とLLC制御を1つのICで実現。システム部品点数を50点以上削減し、基板サイズを約20%縮小</li> <li>デジタル制御であるにもかかわらず、従来の同等レベルの待機電力を実現</li> </ul>	
<p><b>産業機器</b></p> <p>高効率化 小型化</p>	<p>■整流器ユニット</p> <p>通信用電源</p>	<p>従来品と同等サイズで力率を改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従来機RSR48-25TBの後継機</li> <li>PFC機能 (力率改善)の追加</li> <li>強制空冷ファンを用いない、環境に優しい自然空冷タイプの整流器ユニット</li> <li>PFC機能を付加したにもかかわらず既存品RSR48-25TBと同等の外形を維持し、置き換えが可能</li> </ul>	
	<p>■電流センサー</p> <p>太陽光発電システム</p>	<p>「低損失化」および「省スペース化」を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電システムで使用されるパワーコンディショナーの電流検出機能として、従来の抵抗方式 (損失が大きい)とコイル方式 (スペースが必要)に代え、ホール素子を応用した非接触構造の電流センサーを活用し、低損失化および省スペース化を実現</li> <li>従来製品に比して約30%導体抵抗を低下させ大電流へ対応。さらに絶縁距離を確保できるパッケージを採用することで高圧の電流検知に対応</li> </ul>	

持続可能な社会に貢献

## 環境パフォーマンス

# 地球の環境負荷低減に向けて 着実に取り組んでいます



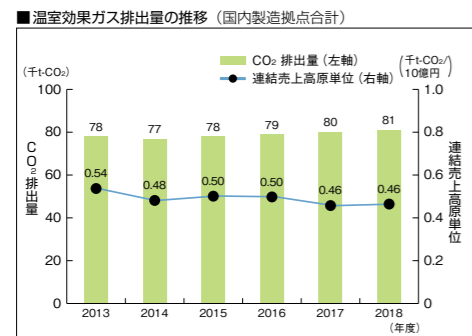
2018年度の国内製造拠点のエネルギー消費量、化学物質などの生産に伴う資源投入量と、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)・廃棄物などの排出量は下記の通りです。

### 省エネ対策と温室効果ガス排出量削減

地球温暖化防止に取り組むため、各事業所において、CO<sub>2</sub>排出量の効率的削減に努めています。一例として、2016年には川越工場、2017年には福島サンケンにそれぞれ太陽光発電を導入しました。また、2017年には川越工場、2018年には本社の重油ボイラーを廃止し、さらには本社CR棟の再編を行いました。猛暑などの影響によりCO<sub>2</sub>排出量は前年度比でほぼ横ばいとなりました。

今年度も引き続きエネルギーロス削減策を講じ、削減目標達成を目指します。

2018年度	目標 (%)	実績 (%)	2019年度 目標 (%)
CO <sub>2</sub> 削減量	前年度比 -1	+0.7	前年度比 -1

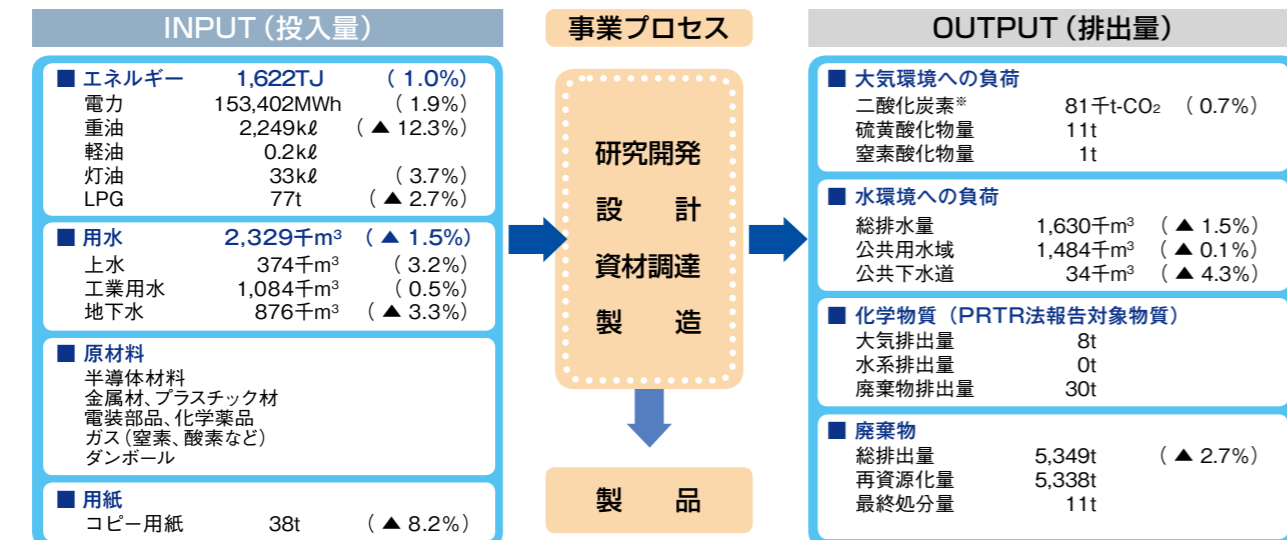
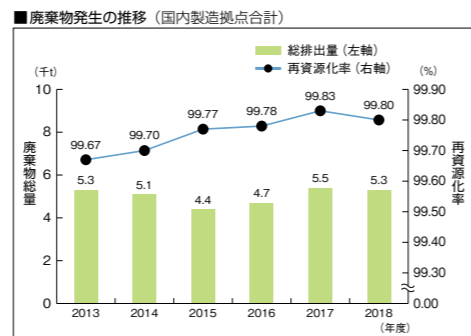


### 廃棄物の削減と資源循環

資源の有効利用および枯渇防止の一環として、「ごみの発生抑制」「排出量の削減」「再資源化の推進」を継続的に展開し、国内10拠点での再資源化率99%以上を維持しています。また、本社の廃棄物については、27分類以上に分別し、細かく管理することにより、リサイクル化の推進に努めています。

昨今注目されている「プラスチックごみ」については、「マイカップ・マイ水筒運動」を展開し、社内のペットボトル廃棄量の削減に向けて取り組んでいます。また、梱包材や通箱などのプラスチックについても順次見直しを行っていきます。

2018年度	目標 (%)	実績 (%)	2019年度 目標 (%)
再資源化	99.0 以上	99.8	99.0 以上



( )内は前年度比の増減率  
国内製造拠点、非製造拠点含む。ただし、廃棄物は営業拠点含まず

\* 二酸化炭素のうち、電力は電気事業連合会発表値、他は温暖化対策法の値を使用

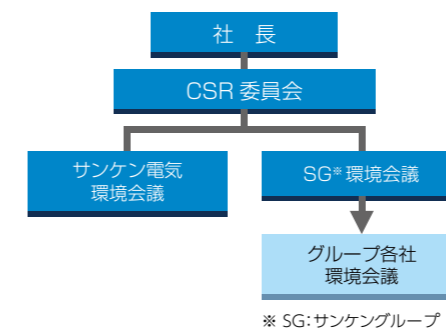
## 環境貢献活動

# 環境活動の推進体制と具体的な取り組み

### 環境マネジメントシステム推進体制

効率的かつ確実に環境経営を推進するため、社長の直属組織である「CSR委員会」を母体として、グループを横断する環境管理体制を構築しています。

当社は、国内・海外の製造拠点のすべてにおいて環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001認証を取得しています。また、事業の特性に応じた環境に配慮した製品開発や、廃棄物や資源エネルギーの削減などを通じて環境保全に取り組んでいます。



### 半導体信頼性評価センター

#### 空調効率の改善

2019年4月、石川県内に新設した「半導体信頼性評価センター」が稼働を始めました。

これまで、本社・川越工場・石川サンケンと3か所に分散していた製品評価を1か所に集約することにより、製品開発の評価スピードを改善することができました。

また、環境面においても、排熱を考慮したフロア設計および評価装置を集約したことによる空調効率の改善によって、年間22百万円の大幅な電力料金削減が実現する見通しです。



### 山形サンケン

#### 排水設備増強

生産増強に伴う工程排水の増加による処理能力不足を解消する目的および、工場排水が水質汚濁防止法の排出基準に適合できなくなるリスクを低減する目的で、2018年10月から2019年5月にかけて排水処理施設の増強工事を実施しました。

フッ化水素酸排水処理は土壌汚染の問題で建屋に収納する必要があり、本来であれば建屋を増築しなくてはならないところ、生産への影響を考慮しつつ、かつ費用の削減を図るという難しい課題に取り組み、増築ではなく現行レイアウトの追加を行うことで増強を図りました。

その結果、排水処理能力は2014年度比で研磨排水の「バックグラウンド(BG)排水処理22%アップ」「フッ化水素酸排水処理およびBOD\*排水処理61%アップ」を達成することができました。



\* BOD (Biochemical Oxygen Demand): 生物化学的酸素要求量。

### 福島サンケン

#### 太陽光発電の設置

福島サンケンでは、再生可能エネルギーである太陽光発電をサンケングループの中では比較的早く設置しました。

2013年に小規模ながら5.16kWのシステムを導入し、2018年には下記の通り39.2kWのシステムを追加しました。

これらの年間発電量は41千kWhになり、約70万円/年の削減効果を上げています。

さらに、省エネ効果を高めるため、電力デマンド設置も導入しています。



#### 概要

発電出力	39.2kW
パワーコンディショナー	当社製品×4
投資総額	12.4百万円

## 社会貢献活動

# 地域と社会へのつながりを大切にしています

「私たちは、良き企業市民として、あらゆる事業活動において地域社会の文化や習慣を尊重しつつ、地域社会と協調し、教育活動やボランティア活動、地域振興事業への支援を通じて相互信頼関係を築き地域社会の持続的な発展に寄与します」

サンケングループCSR基本方針より

私たちサンケングループは、地域社会の持続的な発展こそが企業の発展を支えるという認識のもと、地域との良好な関係を土台として様々な活動を行ってきました。

活動の中心軸として、「半導体をコアビジネスに、パワーエレクトロニクスとその周辺領域を含めた最適なソリューションを提供する」という当社経営理念の実践においては環境分野への貢献が大きく期待されており、その知識・経験を伝えることは、重要な地域貢献の一つと認識しています。

特に、次世代を担う人材に、環境の大切さ、エコ・省エネ活動の推進、ゴミを減らす活動などの重要性を伝えていくことは、最優先のCSR課題と認識し、これまで小学生を中心に「子供環境教室」として実施してきました。

この「子供環境教室」もサンケングループ各社で定着しつつあり、各地域の小学校や地域センターで定期的開催されています。当社としてはこのような活動を継続して行うことで、環境保全意識の高揚に寄与していきたいと考えています。

また当社LEDを使用した「ペットポタル®」は、災害被災地の復興や地域振興・村おこしに使用されており、単なる省エネ器具としてのLEDではなく、希望の灯りの象徴、あるいは観光資源として貢献しています。

このような経営理念の実践を通じた活動以外にも、サンケングループは地域への貢献の一つとして、定期的に障がい者施設への支援を実施しています。

具体的には、「障がいのある方が、自立した日常生活・社会生活を営むことができるように、当社の多くの社員とのふれあいを通じ、それぞれの障がい者が力を発揮し、自己実現が図れ、社会参加へのきっかけとなる」ことを目的として、施設で作ったクッキーなどを障がい者の方々自身が当社内で販売するほか、障がい者の方に当社内の軽作業を体験してもらうなどの活動を行い、彼らが「働く喜び」「仕事の楽しさ」を実感し、社会参加へ繋がるための支援としています。

これらの活動を通じ、サンケングループは、地域の人々からこれまで以上に地域・文化に寄与する価値ある企業と認めいただけるよう活動していきます。



- ① 新座市立野火止小学校「環境教室」
- ② 新座市立東北小学校「エコ調査」
- ③ 海外の子供たち(ミクロネシア連邦ポンペイ島)
- ④ 川越市南公民館「夏休み子供体験講座」
- ⑤ 石川サンケン「子供のづくり教室」
- ⑥ 鹿島サンケン「神栖市消費生活展(かみすフェスタ)」
- ⑦ リソナキッズマネーアカデミー「お金の教室」
- ⑧ 「エコ省エネ」LED工作
- ⑧ ペットポタル
- ⑨ 福島サンケン「夏休み親子LED体験教室」
- ⑩ 川越市大東公民館「環境教室+LED工作教室」
- ⑪ 新座市畑中公民館「電子工作教室」
- ⑫ 新座市栗原公民館「夏休み子供教室」
- ⑬ 「福祉工房さわらび」によるクッキー販売(本社)
- ⑭ 「川越ワークいちばん星」によるクッキー販売(川越工場)
- ⑮ 「福祉工房さわらび」の軽作業体験